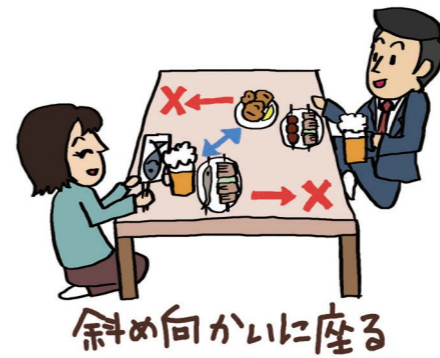


# これからの感染拡大に備えて

正面と真横の席は避け、間隔を。少人数で短時間を心掛けましょう

お酒は適量に



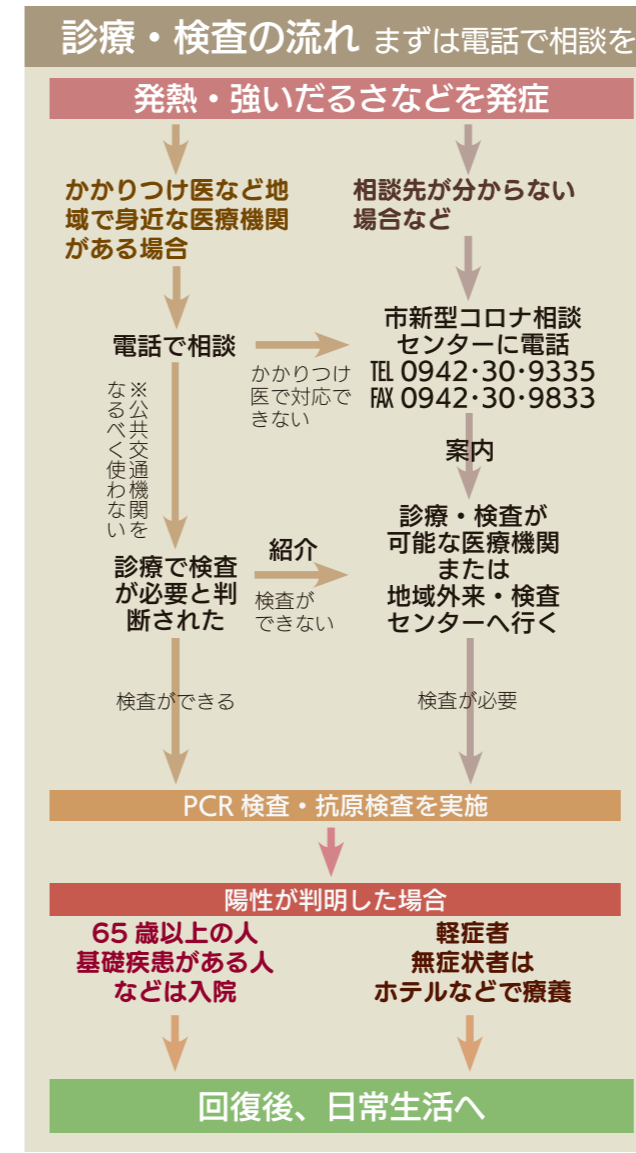
- 一人一人ができる予防策を  
年末年始は飲食の機会が増える時期です。飲酒を伴う会食でクラスターが発生した事例が全国的に見られます。  
厚生労働省は感染事例を分析し、感染リスクが高まる場面ごとに注意すべき点を示しています。
- 【1】飲酒を伴う懇親会など  
飲酒の影響で気分が高揚し、注意力が低下。大きな声にもなりやすく、飛沫が飛びやすい  
回し飲みや箸などは共用せず一人一人です
- 【2】大人数や長時間の飲食  
長時間に及ぶものや接待を伴う飲食などは感染リスクが高い  
5人以上の飲食は会話が大声になりやすくなる
- 【3】マスクなしでの会話  
マスクをしていない近距離での会話は飛沫感染などが発生しやすい
- 【4】狭い空間での共同生活  
寮の部屋など狭い空間での共同生活は、閉鎖空間が長時間共有されるので感染の可能性が高くなる
- 【5】居場所の切り替わり  
仕事中、休憩時間などで居場所が変わった時の気の緩みなどで感染リスクが高まる  
休憩室や喫煙所などで感染が疑われる事例が発生

同居生活は、閉鎖空間が長時間共有されるので感染の可能性が高くなる

まずはかかりつけ医に相談  
市は、今後多くの発生が予測される発熱などの患者に対応するために、かかりつけ医を中心とした診療・検査体制を強化しています。身近なかかりつけ医が電話で相談を受け付け、診療・検査につなぐ体制を作り、増加

する検査数に対応します。  
◎保健予防課 ☎0942・30・9730、FAX0942・30・9833

市ホームページが「感染リスクが高まる5つの場面」とは「へ」  
詳しくはQRコード

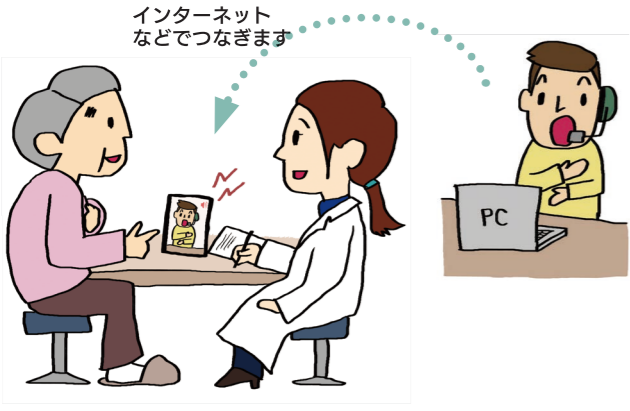


コロナ禍による新しい生活様式の中での配慮

# 一人一人が理解し合う社会に

障害のある人もない人も自分らしく安心して暮らしていくためには、全ての人が障害について理解をし、さまざまな配慮をしていくことが必要です。障害者基本法で定められた12月3日から9日の障害者週間に当たって、私たちができることを考えます。

新型コロナの影響  
コミュニケーションは、障害の有無にかかわらず、生活を送るためには不可欠です。聴覚障



遠隔手話通訳サービス利用のイメージ

害者は、主に手話や口の動きを読んで、コミュニケーションを取っています。新型コロナ禍で、マスク着用、人との距離を保つことなど新しい生活様式が生まれました。手話通訳者の感染リスクを恐れて依頼をためらったり、マスクで口の動きが読めなくなったりするなど、聴覚障害者のコミュニケーションにも大きな影響が出ました。  
久留米市は、10月からウェブ会議アプリZoomなどを使った遠隔手話通訳サービスを始めました。スマホやタブレットを利用して、離れた場所から映像と音声で通訳します。通訳者が同席しないので安心です。

少しの配慮で変わる  
手話通訳は聴覚障害者のコミュニケーションを支援する方法の一つです。他にも、筆談や身ぶりなど手話ができなくてもコミュニケーションを取ることが出来ます。  
聴覚だけでなく、障害の特性などにより必要とする支援はさまざま。その人の障害を理解しようとするのが、適切な配慮につながります。コロナ禍の今だからこそ、配慮について考えることが大切。その積み重ねが暮らしやすい社会を作ります。  
◎障害者福祉課 ☎0942・30・9035、FAX0942・30・9752

## 伝わることで安心

私は、手話と口の動き、表情を見てコミュニケーションを取っています。話すことはできるので、普通に話し掛けられますが、聞こえないと分かったら、諦められることも少なくありません。大声で話されても、大きな音がするだけで、口の動きが分かるようにゆっくり話してもらいたいです。伝わりと安心できます。言いたいことが伝わるのが重要なことです。手話ができなくても、お互いに理解しようとする気持ちが大事なんだと思います。

コロナの影響で、マスク着用が当たり前となりました。口の動きを見たいのですが「マスクを取ってくれませんか」とはなかなか言い出せません。長い会話だと筆談をしても情報が限られてしまうので、分からないのになぜかしてしまいうこと。スマホの音声文字変換アプリを使うこともあります。

遠隔手話通訳サービス開始はうれしいですね。手話通訳者が同行しないので、感染を心配せずに伝えたい・聞きたいことが直接行えるので使いたいです。



久留米市ろうあ協会事務局長 竹下学栄さん